

学校名	佐世保市立宇久小学校
授業者	川崎 美樹

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

宇久島を笑顔にしよう

1-2. 学年

1年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

「宇久・実践」「算数科」「音楽科」「生活科」

1-4. 単元の概要

1年生では、ふるさと宇久島を大好きになることを目標に、海に親しみ、海を楽しむ活動を位置づけている。児童は島の人々と触れ合う中で、そのやさしさに気づき、自分たちも島や島の人の役に立ちたいという思いをもつようになった。また、島内には多くの樺の木が植えられ、それらが港の防風対策や美観を守ることに役立っていることを知り、樺の苗木を植えたり、樺の実を使って樺油を作ったりして島の人々を喜ばせようと、意欲的に活動に取り組んだ。

本単元では、児童がより主体的に学ぶことを念頭に、教科横断的な単元構成を生かし、宇久・実践と各教科とをつなぎ、宇久島の樺を題材に設定した。また、出来上がった樺油を、宇久島と同じ離島部に位置する対馬南小学校の子どもたちに送ったことをきっかけに、オンラインでの交流が始まった。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本単元では、宇久の海の恵みについて考える宇久・実践の時間と各教科とを横断させた単元構成を仕組んだ。児童の「島の役に立ちたい」「島の人々を笑顔にしたい」という思いを大切に、樺という地域特有の資源を生かしながら、単元を構成するよう努めた。この単元を通して、児童がふるさと宇久島の魅力に気づき、島の人々と触れ合うよさを十分に味わいながら、海の恵みを生かして豊かに、楽しく生きていこうとする態度を育てることをねらいとした。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・ 地域の人々と進んで触れ合おうとする。
- ・ 算数科等教科で学んだことを、樺油作りや樺油石鹸作りに進んで生かそうとする。
- ・ 相手に伝わるように工夫しながら、学んだことを発表しようとする。

1-7. 単元の展開（全 時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	宇久のまちを探検しよう	○ 校外へ出かけ、町の様子や人々の様子、またそれらの良さに気づく。 評価：宇久の良さに気づき、友達と意見を交流させることができたか。 外部連携：地域
3	砂浜の植物観察	○ 2年生と共に砂浜を訪れ、植物を観察した。 評価：砂浜とその周辺の植物を観察し、宇久の自然の豊かさに気づくことができたか。
3	磯の生き物観察	○ 2年生と共に砂浜を訪れ、生き物の専門家である外部講師の解説を聞きながら、生き物に親しむ。 評価：生き物との触れ合いや、講師の解説を通して、宇久の自然の豊かさに気づくことができたか。 外部連携：外部講師（佐伯先生）
8	椿油・椿油石鹸作り	○ 島内で集めた椿の実から椿油を絞り、椿油石鹸を作る。 評価：椿油作りに関心をもち、椿油を活用して島の人の役に立とうとする気持ちを高めることができたか。 外部連携：外部講師（宮崎さん）、観光協会 対馬南小学校
9	椿の植樹	○ 椿の木を港周辺に植樹する。 評価：椿の木が港の防風対策にも役立っていることを知り、植樹を通して島の役に立とうとする気持ちを高めるところができたか。 外部連携：行政センター

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 字久・実践 8時間中の 8 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

椿油作りについてまとめ、作り方や使い方をわかりやすく伝える。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 自己紹介をし、椿油の作り方について、使用する道具を取り上げながら伝える。	○ 事前に対馬南小学校に椿油と椿油石鹸を送り、使用してもらっておく。
2 発表についての感想や、質問されたことに答える。	○ 自由に話せる雰囲気、楽しい雰囲気を維持しながらテンポよく進める。
3 お互いの学校について、質疑応答する。	○ サポート役として、5年生を招き、応答の手助けをしてもらう。
4 今日の活動を振り返る。	○ 今日の活動を振り返り、今後の活動に対する意欲を高める。

3. 今回の活動の自己評価

- 児童の「島の役に立ちたい」「島の人々を笑顔にしたい」という思いを大切に活動を仕組んだことで、児童はいずれの活動においても意欲的に取り組むことができた。何のためにこの活動があるのか、児童が理解し、納得していることの重要性を感じた。
- 椿の実を集める活動では、島内のたくさんのお年寄りの方々と知り合い、触れ合って、親交を深めることができた。「子どもたちがいるだけで、元気がもらえる」と、活動のねらいにつながるありがたい言葉をいただき、学校の教育活動に対する理解にもつながった。
- 対馬南小学校とのオンラインによる交流は、今後の新たな活動の形に示唆を与えるものだった。

4. 今後の課題

- 観光協会や地域の方々のご協力があったからこそ成立した単元である。今後も、学んだ成果を発信しながら、地域の方々にご支援がいただけるよう尽力したい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本校では、教科横断的な単元構成力の向上を目的に、研究を進めてきた。活動のゴールに至るまでに、宇久・実践をはじめ、算数科、国語科、音楽科等様々な教科とを関連させて単元を構成している。

また、主体的、対話的で深い学びのために、児童が自分たちで話し合う過程を重視している。

オンラインでの交流については、本事業より支援いただき購入した通信機器がたいへん役立った。学校設備だけでは、回線の問題などから交流が難しかったと思われる。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。